松沢小学校仮設校舎の多目的スペースの評価
—学校改築工事中の対応に関する研究 その1—

木村信之

The Evaluation of Multipurpose Spaces in a Temporary Building of Matsuzawa Elementary School —The Case Study Under Reconstruction Process 1

Nobuyuki Kimura

Abstract

Matsuzawa Elementary School (public, in Setagaya-ward) has been under complete reconstruction. The author proposed to set up multipurpose spaces in a temporary school building on the playground and three multipurpose spaces have been made available enabling various experimental activities to take place before the completion of the new building.

This study aims at proving the validity of this proposal. The author observed the use of the spaces for the first 3 months and did a questionnaire research on the pupils and teachers asking how they evaluated the multipurpose spaces.

The results revealed that they were used for various purposes during regular class hours and extra-class hours, and both pupils and teachers evaluated them positively. The author concludes that the initial elaborate plan to make available new spaces like multipurpose spaces can be effective in light of this practical experience.

Key words: reconstruction process (改築プロセス), temporary school building (仮設校舎), multipurpose space (多目的スペース)

仮設校舎における多目的スペース設置の経緯

世田谷区立松沢小学校は、平成20年度竣工を目指して学校施設の全面建て替えを進めている。そのため、校舎仮設校舎を建設し、平成18年10月から仮設校舎に移り、旧校舎の取り壊しが始められた。平成18年度中に旧校舎の取り壊しが終わり、平成19年10月現在、基礎部分の工事が進行している。この改築事業に、設計担当者の協力者として今日まで関わる機会を得た。

改築の設計に当たっては、学校、児童の父母、地域を代表するメンバーを中心に構成された基本構想策定委員会で検討を行い、近年世田谷区で全面改築を行った他の小学校と同様、多目的スペースを持った校舎が計画された。この検討の中で、地域を代表する委員から多目的スペースは不要ではないかという意見が少なからず表明された。これらの委員は、多目的スペースのなかった時代に小学校教育を受けており、その記憶の中小学校に不満がなかったことから、多目的スペースがなくても小学校教育はできるという考え方を持っていた。また、多目的スペースを設けて全面改築された世田谷区内の小学校の状況を見て、教室と多目的スペースの間に間仕切りを設けていない「廊下拡張型」の空間で、それぞれの教室部分を他の部分から家具を目隠しとして遮隔し、教室部分の外に様々な家具や教

—(40)—
材・教具を出しておくという状態を数多く目にし、多目的スペースが教材倉庫のようにになっているとの印象を受け、多目的スペースを設けることによって校舎内が無秩序になり、児童の生活態度が無秩序になることを助長するのではないかという危惧を抱かせた面があった。これら、多目的スペースを不要と考えるメンバーとの議論の中で、設計者や教育学の学識経験者が多目的スペースの有効性について言葉を尽くして説明を行ったが、全面的な理解を得るには至らなかった。

この基本構想策定委員会の検討と平行して松沢小学校の教職員からのヒアリングや意見交換も行っていったが、多目的スペースを持つ学校での経験のない教員が大半という中で、多目的スペースの重要性を理解する教員は一部にとどまり、多くの教員は、多目的スペースよりも、低学年図書室とか、視聴覚教室、教材倉庫など、特定の用途の専用室を充実させることを求めた。

こうした、教職員や地域代表の考えは、いずれも多目的スペースの使用経験がない中で表明されたものであり、こうした人々に対し言葉で理解を得ることが非常に難しいということも体感するところであった。

そこで、こうした教職員などに多目的スペースの有効性の理解を得るためには、実際に多目的スペースを見、使ってみることが必要であろうと考え、工事期間中に使用する仮設校舎の中に多目的スペースを設けることを提案した。

この提案を受けけて計画した仮設校舎では、ロの字型に周回する廊下の西、南、東（2階のみ）の外周部に教室が配され、中庭面する廊下の内側（1階は西側、2階は西側と東側）に、ほぼ1.5教室大の廊下拡張型の多目的スペースが2箇所（1・2年対応：1階、3・4年対応：2階、5・6年対応：2階）設けられた。これらの多目的スペースは、廊下との間に間仕切りを設けていないが、教室と廊下の間には間仕切り壁を設けたものとし、教室部分の独立性の確保にも配慮した形態をとった（図1）。

本研究は、この仮設校舎内に設置した多目的スペースの使い方を継続的に観察し、学習や児童の生活・遊びの上でどのような使い方がなされるか、また、どのような使い方が経験していく中に、教職員や児童が多目的スペースに対しどのような認識を示すかを明らかにし、実際に多目的スペースを身近に置いて使うという体験が、多目的スペースに対する理解を深めることに対する有効性を確認 —-(41)—
することを目的としたものである。

● 研究の方法

調査は仮設校舎の使用を開始した平成18年10月から12月の間、松沢小学校に赴き、多目的スペースを使っている状況を観察すると共に、2学期終了時点を目安として、5・6年生に対して「仮設校舎の好きなところ、きらいなところ」という課題とその理由を記述する作文、教員に対しては多目的スペースの評価に関わるアンケートを行った。

観察調査は、中休みとその前後の授業時間、多目的スペースがどのように使われているか、写真に撮り、継続的に観察した。調査は、10月30日、11月7日、11月14日（アートフェスティバル期間中）、11月24日、12月1日（箱とイスの展示中）、12月5日の6回行った。

児童の作文調査は5・6年生それぞれ1クラスの協力を得、5年生34名、6年生37名からの作文を得られた。

教員に対するアンケート調査は、13名の教員から回答を得ることができた。

● 多目的スペースの使い方

多目的スペースの学習面での使い方では、
①社会科授業で松沢小学校周辺の商店街を児童が調べた結果について、学年全員が多目的スペースに集まった中で、ステージを設けてそこで発表する。（4年生 写真1、2）
②授業時間中に一部の児童が多目的スペースを用い作業を行う。教師が一部の児童を多目的スペースに引き出して指導を行う。（5年生 写真3）教室と多目的スペースに半数ずつ分かれ劇の練習をする。（低学年 写真4、5）
③多目的スペースを児童の作品の展示スペースとし公開する。（アートフェスティバル）などの場面を見ることができた。（写真6）

特に、低学年（1・2年生）の多目的スペースでは、コマやお手玉といった昔の遊び道具をはじめ、生活科や図工で使う道具を、子供たちの目に触れるように棚に整理して多目的スペースに置き、これらを使った活動がいつでも行える空間の設えがされていた。（写真7、8）

中休みの生活・遊びの様子は、中学年・高学年では、多目的スペースにあるテーブル（キャスター付）上でのトランプなどのカードゲームが多く見られた。（写真9）

その際、テーブルは児童の手で動かされ、遊びのグループ人数に応じたテーブル面の広さを取っている。また、多目的スペースのコーナーにテーブルで囲った小さなスペースを作り、自分たちの地域のようにして遊んでいる児童も見受けられた。（高学年 写真10）

低学年では家具が動かされることは少ない。児童の遊び方としては、テーブル上を使って遊ぶばかりではなく、廊下や家具の間の床面で遊ぶ様子が見られた。（写真11）

また、11月30日、12月1日の2日間、9月中旬に実施された旧校舎のお別れ会のイベントの一つとして、児童がダンボールで製作した箱（高さ1.2m、縦横60cm×60cm〜1.2m×1.2m）やイスを中学校の多目的スペースに並べ、自由に使ってもらう様子の観察を12月1日に行行った。中休みになると、いつもに倍する50〜60名の児童が殺到し、箱に出入りしたり、箱の内外でおしゃべりをしたり、箱の周りを駆け回るなど、活発な活動が続けられた。（写真12）
写真1 学年合同の発表授業

写真2 学年合同の発表授業

写真3 授業時間中の多目的スペースでの個別作業

写真4 劇の練習（低学年）教室

写真5 劇の練習（低学年）多目的スペース

写真6 アートフェスティバルでの展示

写真7 低学年の多目的スペース（全体）

写真8 棚に整理されている遊び道具
遊びの中での箱の破損に対し、ガムテープをもって修理を行う児童がいるなど、自分で遊ぶという思いを感じさせる面も見られた。（写真13）

このように、学習面、生活・遊び面共に多様な場面を見ることができます。特定の用途に限定されない多目的スペースの機能がすみやかに実現されている。個々の場面を見ると、1学年（4クラス）の集まる集会を行う上では、機を使用しない場合、1.5教室大のスペースで足りることが確認された。ところが、学級単位での通常の授業の中での多目的スペースへの一部児童の取り出しなどの併用は、教室が多目的スペースに面している学級のみが実施しており、教室に面して多目的スペースを設置することによる学習面での使い方の広がりを感じさせるものがある。生活・遊びの面では、スペース内の家具の種類、量、配置などの設定が児童の活動に及ぼす影響も確認された。机とイスが置かれている場合、3年生以上ではカードゲームなどの静的な遊びしか見られなかったもので、

机とイスの代わりにカラフルな箱を並べた場合は、活動的な遊び場に変貌している。児童にとって机とイスの存在は、そのスペースが学習に使う静的につんざいではならぬという信号となってい
ことを思わせる。1.5教室大の多目的スペースの大きさは活動的な遊びでは4クラス（100名以上）
の児童には狭く、1年生あたりこの2〜3倍の広さが必要と思われる。また、1・2年生のスペースで
は床上で遊ぶ児童が多数見受けられ、床面を使うことを主眼とした多目的スペースの設けをすること
も考えるべきであろう。

● 多目的スペースの児童の評価

仮設校舎の好きな場所・きらいな場所についての作文調査では、好きな場所については43のスペ
ース、部位について延334件、きらいな場所については39のスペース・部位について延326件のコ
メントが寄せられた。うち、好きな場所へのコメント数は、多目的スペースが最も多く、64名（90%）
の児童があげており、第2位のクラスルームの教室の43名（60%）を大きく引き離している。仮設
校舎内の多くのスペースが好きな場所にもきらいな場所にも上っている中で、多目的スペースとバッ
ケン室のみはきらいな場所にあげているものはない。また、仮設校舎の設立てによって校庭がなくな
ったことをあげたものは5名（7%）にとどまっている。使用状況の観察で、多目的スペースが児童
の生活・遊びの場となっていることが確認された。多目的スペースを設けたことは、校庭がなくなる
ことによって危惧された遊びの場の喪失感を、ある程度克服することになっているといえるのではない
だろうか。

多目的スペースの好きな理由を見ると、「今までになかった教室なので新しい空間がうれしい」「広
い」「きれい」「壁や床の色がカラフルで楽しい」「楽しいと感じる」「移動棚で空間を自由につくって楽しめる」「広い空間があるので、好きなことができる」「低・中・高学年用に教室があるため、低学年生を気にせず安心して遊ぶことができる」「他学年とコミュニ
ケーションがとれる」といったコメントが見られた。ここで明らかのように、在来型の校舎にはな
かった開放的な広々とした感じを与える空間自体としての存在、そして多様な遊びや交流を気軽に作
ることができるという、生活・遊びの場としての評価を見て取ることができる。

● 箱とイスの評価

11月30日と12月1日に多目的スペースに置いた箱とイスについて、実際に使って遊んだ4年生
に対し、その評価を求めるアンケート調査を実施し、73名の児童から回答を得ることができた。
箱（高さ1.2m）については、展示した4つのサイズに関する質問では、横1.2m×1.2m（52名）、
1m×1m（14名）、80cm×80cm（5名）、60cm×60cm（2名）と、大きいサイズほど好まれ、また最も
大きなサイズを選んだ児童が全体の7割を占め、数人で一緒にすることのできる点が好まれている。  
また、どのような遊びに使いたいかという問いには、「鬼ごっこややかくれんぼ」「秘密の話や相談会議」「
家にして中でおままごと」「迷路やお化け屋敷」「友達とごろごろ」「秘密基地」「本を読む」「重ねて
大きい家にする」「トランプや消しゴム遊び」「イスを入れて遊ぶ」「店の屋台をつくる」など、多様
な遊び方が記されており、箱の生み出す空間を活用しようとする、児童の多様な発想を引き出している
。さらに、この箱をどうすればよいかという質問に対し、「中に模様をつけてみたい」「棚や机、イス
をつけたい」「テレビやコンボをつけたい」「電気をつけて明るくしたい」「窓を大きくして光を多く
」「カーテンをつけたい」「ゲームをつけたい」など、空間に手を加えることでより楽しい遊び場に
したいという能動的な意欲を感じさせる回答が寄せられている。

---(45)---
イスについては、「イスとりゲームをする」「積み重ねる」「机にする」「横に並べてベッドのようにして使う」「棚にする」「重ねて迷路にする」「箱の穴があるところにおいてドア代わりにする」「箱の中に入れて物置にする」「もっと大きい家を作ってその中に置く」「長板、机が足りなくてトランプができるときがあるから机にする」「跳び箱にする」「積み上げて高いイスにする」「長いイスにして友達と座る」「ピラミッドのようににする」「トンネルをつくる」と、これらも多目的な使い方があたられている。

これから、児童の様々な発想を誘発し、自ら遊びを創造していくことのできる遊び場が、児童には非常に魅力的な遊び場であることが、場面の観察、アンケートの結果からも見て取ることができる。

●多目的スペースの教員の評価

仮設校舎を旧校舎と比較しての評価では、なくなった点として4名（30％）が多目的スペースが設けられたことをあげている。一方、悪くなった点として、相談室がない（2名）、会議室がない（1名）、職員更衣室がない（2名）など、主として管理関係の専用室について不備と指摘する評価が寄せられている。また、多目的スペースが2学年に1箇所を割り当てているため、その使用について学年間の調整という新たな仕事が増えたということを悪くなった点としている回答も1例見られた。

また、多目的スペースに関する評価（表1）では、学年教室（多目的スペース）があることによるゆとり感、学習面での用途、児童の生活面での用途とも、ほぼ肯定的な意見に収斂している。そうした中で、あまり使えないだろうという回答が多かった用途と思われるものとして、「今までの特別教室でできなかったこと」は5名、「今までのクラスルーム教室ではできなかったこと」、「クラスルーム教室と多目的スペースで役割分担して相乗効果をあげること」の2項目では3名の教員があげている。

これらの回答は、仮設校舎を使い始めもか月の時点で回答であり、質問に掲げたような用途を実際に試行した上での回答ではなく、むしろ多目的スペースを見た第一印象での回答とみなすこともできる。その点に留意した上でのことではあるが、学校では従来の特別教室やクラスルームの教室の用途以外に多様な学習・行事が行われており、そのためのスペースとしての多目的スペースへの期待、児童の心理面、ならびに活動できるスペースとしてのゆとりを与える場として期待されていることがうかがわれる。こうした多目的スペースの存在に対する期待は、多目的スペースの数が2学年に1箇所では不足しているという意見が半数（6名）の教員から出されていることからも推察されよう。

また、スペースの大きさについては、8名がちょうどよい、3名が1.5倍程度必要と答えており、仮設校舎に設けた学年全員が集まって集会を行うことのできる大きさが、多くの教員の支持を得たことからも、この大きさが多目的スペースの最小の大きさのめやすとして考えることができよう。

多目的スペースの設えについては、廊下と多目的スペースの間に稼動の間仕切りを設けることについて、廊下と分離するために不可欠とする意見が5名、あれば様々に活用できるとする意見が5名から寄せられ、なくてよいとする意見は2名と少数であった。この理由としては、主に休み時間に多目的スペースで遊んでいる児童を念頭に、廊下を通行する児童と衝突する可能性への危惧、教室で授業が継続している場合の多目的スペースからの騒音の干渉が主たるものとなっている。

児童の遊びについては、大多数の教師が静かな遊び、おしゃべりをあげ、体を使った遊びについては5名があげるにとどまり、こうした遊びに伴う、事故、騒音について危惧を持つ教員が多いという
### 表1 教師の仮設校舎の多目的スペースの評価

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年教室があることで旧校舎と比べ校内にゆとりを感じるか</th>
<th>大いに感じる</th>
<th>どちらかというと感じる</th>
<th>あまり変わらない</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><strong>学年教室はどのような分野で使うことができるか</strong></td>
<td><strong>2</strong></td>
<td><strong>8</strong></td>
<td><strong>1</strong></td>
</tr>
</tbody>
</table>

| **ア．学習面** | | | |
|----------------|----------------|--------------------------|
| 大いに使える | 使えない | 使えない |
| ■大いに使えると答えた人 | ■大いに使えないと答えた人 | あまり使えない |
| 本を使っての調べ学習 | 雑務・業務等 | 学年集会 |
| 学年集会の時 | 遊び場 | ガラス板の設置 |
| •広げて見せる物があるとき | •音楽教室 | •学年集会 |
| •発表練習 | •音楽教室 | •学年集会 |
| •ビデオを見るとき | •学年集会 | •学年集会 |
| •学年で講師の話を聞くとき | •学年集会 | •学年集会 |
| •番初め | •学年集会 | •学年集会 |
| それなりに使える | 使えない | 使えない |
| ■それなりに使えると答えた人 | ■それなりに使えないと答えた人 | あまり使えない |
| 本を使っての調べ学習 (3) | 本を使っての調べ学習 | 学年集会 |
| 雑務・業務等 (2) | 雑務・業務等 | 学年集会 |
| •グループ発表の練習 (2) | •グループ発表の練習 | 学年集会 |
| •学年集会 | •学年集会 | •学年集会 |
| あまり使えない | あまり使えない | あまり使えない |
| 回答なし | 回答なし | 回答なし |

| **イ．児童の生活面** | | | |
|----------------|----------------|--------------------------|
| 大いに使える | 使えない | 使えない |
| ■大いに使えると答えた人 | ■大いに使えないと答えた人 | あまり使えない |
| 雑務・業務等 (3) | 雑務・業務等 | あまり使えない |
| 雑務・業務等 | 雑務・業務等 | あまり使えない |
| •読書 | •読書 | あまり使えない |
| •相談 | •相談 | あまり使えない |
| •給食準備中の仕事や打ち合わせ | •給食準備中の仕事や打ち合わせ | あまり使えない |
| それなりに使える | 使えない | 使えない |
| ■それなりに使えると答えた人 | ■それなりに使えないと答えた人 | あまり使えない |
| 雑務・業務等 (5) | 雑務・業務等 | あまり使えない |
| •校庭があったらわからない | •校庭があったらわからない | あまり使えない |
| あまり使えない | あまり使えない | あまり使えない |
| 回答なし | 回答なし | 回答なし |

| **ウ．行事面** | | | |
|----------------|----------------|--------------------------|
| 大いに使える | 使えない | 使えない |
| ■大いに使えると答えた人 | ■大いに使えないと答えた人 | あまり使えない |
| •アートフェスティバル・作品展示 (2) | •アートフェスティバル・作品展示 (2) | あまり使えない |
| •演劇の練習 | •演劇の練習 | あまり使えない |
| それなりに使える | 使えない | 使えない |
| ■それなりに使えると答えた人 | ■それなりに使えないと答えた人 | あまり使えない |
| •作品の展示スペース | •作品の展示スペース | あまり使えない |
| •学年集会 (3) | •学年集会 (3) | あまり使えない |
| あまり使えない | あまり使えない | あまり使えない |

<table>
<thead>
<tr>
<th><strong>エ．今までのクラスルーム教室でできなかったこと</strong></th>
<th>大いに使える</th>
<th>それなりに使える</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>あまり使えない</td>
<td>使えない</td>
<td>使えない</td>
</tr>
<tr>
<td>回答なし</td>
<td>回答なし</td>
<td>回答なし</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th><strong>オ．今までの特別教室でできなかったこと</strong></th>
<th>大いに使える</th>
<th>それなりに使える</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>あまり使えない</td>
<td>使えない</td>
<td>使えない</td>
</tr>
<tr>
<td>回答なし</td>
<td>回答なし</td>
<td>回答なし</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---

(47)
ことも示されており、児童への作文・アンケート調査で示された遊びの希望とはずれがある。
これらから、教師の意識の中には、自分の担任する学級の運営、授業に最大の関心があり、その妨げとなりそうな要素については極力排除したいという姿勢がうかがわれる。その一方で、学年など、クラスの枠を超えた活動も行われており、そうした活動を行う場所として、また、そうした活動に際して自分のクラスルーム教室が使われずに保護されるような施設のあり方をも、求めていると考えられる。

●改築プロセスでの多目的スペースの試用の有効性

仮設校舎の中に多目的スペースを設け、その試用を始めて３か月の段階においても、多目的スペースが身近にあることによって様々な使い方が行われ、また、教師もその使い方を実感を持って考え、使い始めている様子を見ることができた。このことは、実際の空間があるということが言葉や他の学校の見学などだけでは伝えられないものを伝えているといえるであろう。この時点で仮設校舎の使い方や教員の意識は、学級単位での活動にとっては益・不利益が大きな判断基準になっていることがうかがわれ、多目的スペースの機能を最大限に使いこなすというレベルから見ればもう一段の意識の変革が期待される。

今後、さらに２年間この校舎を使い込んでいく中で、チームティーチングなどの新たな発想からの使い方が生まれてくることも含め、多目的スペースの活用についての経験の蓄積と習熟がなされていくものと期待される。こうした点にも関心を持ちながら、今後とも仮設校舎の使い方の観察と児童・教職員の意識の動向をフォローアップしていくこととしたい。

謝辞

本研究の調査は、平成18年度卒業生の渡邉美穂さんをはじめとする木村研究室の生活環境学科・生活文化学科の卒業生諸君、松沢小学校の教職員、児童、父母、そして世田谷区教育委員会など、関係諸氏の全面的な協力を得て行われたものである。末筆ながら皆様に対し、深甚なる感謝の意を表する次第である。

（きむら のぶゆき 文化創造学科）